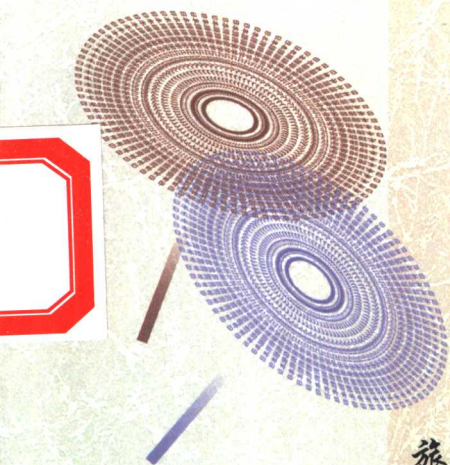




陈燕生/编著

日语词汇学



旅游教育出版社

日语词汇学

陈燕生 编著

旅游教育出版社

· 北 京 ·

责任编辑:李荣强 颜 慧

图书在版编目(CIP)数据

日语词汇学/陈燕生编著. —北京:旅游教育出版社,2003.4

ISBN 7-5637-1111-2

I. 日… I. 陈… III. 日语-词汇学 N. H363

中国版本图书馆CIP数据核字(2003)第012505号

日语词汇学

陈燕生 编著

出版单位	旅游教育出版社
地 址	北京市朝阳区定福庄南里1号
邮 编	100024
发行电话	(010)65778403 65728372 65767462(传真)
E-mail	tepfx@fm365.com
印刷单位	北京荣华世纪印刷有限公司
经销单位	新华书店
开 本	850×1168 1/32
印 张	7.125
字 数	154千字
版 次	2003年4月第1版
印 次	2003年4月第1次印刷
定 价	12.00元

(图书如有装订差错请与发行部联系)

前 言

《日语词汇学》是我院日语系教材建设计划的一个项目，可用于日语专业高年级或研究生选修课。

教材主要介绍了日语的词汇、语义等其它方面的基本知识。本教材全文用日语编写。这样做是为了使学习者更准确地掌握日语词汇学的具体定义及特点。

目前，在国内，对日语词汇进行体系性的比较研究尚未形成类似语法研究那样的规模，但也出现了一些很好的研究成果。如：沈宇澄主编的《现代日语词汇学》，吴佩编著的《日语词汇研究》。此外，徐一平的《日本语言》，顾海根的《日本语概论》，崔春基与卢友络的《日本语概论》等论著中关于词汇学的部分，均为本教材的编写提供了有益的参考。同样，本教材也从日本学者的有关作品和论述中获益颇丰，在这里一并表示感谢。

本教材吸收了当前日语词汇研究中最通行的观点、定义及方法，并以此为主框架构成基本内容。这样可使学习者有系统地了解日语词汇学各方面的权威观点。本教材所采用的国内外的有关论述在书中和后面附页的参考文献目录中均有详注。这方面难免会有一些疏漏，诚恳各方面谅解。

本教材编在写过程中，得到系领导的大力支持和帮助，经日籍专家高本章江先生审阅并提出宝贵意见。对此表示衷心的感谢。

由于水平有限，错误、缺点所在难免，望各位同仁赐教指正。

编者

2003 年 2 月

目 次

第1章 序論	1
一、単語	1
二、語彙	4
三、語彙論	7
第2章 語の意味	11
一、意味とその性質	11
二、意味領域	13
三、意味領域における語義と語彙体系	14
四、対象的意味と感情的意味	18
五、意味変化	21
六、意味記述の要点	28
第3章 特殊な意味の語彙	32
一、固有名詞	32
二、擬音語・擬態語	34
三、指示語（こそあど）	41
第4章 語の構成	47
一、合成	47
二、複合	51
三、派生	55

四、転成	60
五、省略	64
六、漢語の作り方	66

第5章 語の種類	71
一、類義語	71
二、対義語・反義語	79
三、意味の広い単語と狭い単語	86
四、同音語と同形語	88

第6章 語種	93
一、語種による分類	93
二、語種の構成	94
三、和語	96
四、漢語	100
五、外来語	107

第7章 語彙の様相	116
一、話し言葉と書き言葉	116
二、敬語とその語彙に見られる様相	119
三、文章語・雅語・俗語	122

第8章 語の位相	126
一、男性用語と女性用語	127
二、女性語	129
三、幼児語	130
四、老人語	132
五、隠語	133

六、忌詞	135
第9章 語彙計量・基本語彙と基礎語彙	139
I. 語彙計量	139
一、語彙量の統計とその方法	140
二、語彙調査	143
II. 基本語彙と基礎語彙	146
一、基本語彙	147
二、基礎語彙	149
三、個人語彙	151
第10章 慣用句	158
一、慣用句の範囲	158
二、慣用句の各側面における性質と特徴	163
第11章 語彙史	174
一、上代（奈良時代）	174
二、中古（平安時代）	177
三、中世（院政鎌倉時代）	180
四、近世（江戸時代）	186
五、近代（明治時代以後）	192
第12章 辞書	198
一、辞書の定義	198
二、語彙論とのかかわり	200
三、辞書と語数	201
四、言語辞典の内容	202

五、辞書の歴史および沿革·····	209
-------------------	-----

第1章 序論

人間同士は言語表現を通して、コミュニケーションを成立させる。言語による表現とは、単語を一定の文法規則にしたがって組み合わせて、文にまとめ上げることである。そこで、語彙と文法は文を構成する際に、欠くことのできない二つの基本要素であり、両者が互いに密接に関係しあって結びついているものである。たとえば、

太郎は花子に家族の写真を見せる
といった文では、「太郎」、「花子」、「家族」、「写真」、「見せる」という五つの単語は自ら意味内容を表すという語彙的なものであるのに対して、「は」、「に」、「の」、「を」は、「太郎」などの五つの単語がそれぞれ意味の上において他の部分とどういう関係があるのかを示すという文法的な働きを持っているものである。

このように、一つの文は語彙的な側面と文法的な側面とをもっている。これらの語彙と文法はそれぞれ言語学の研究対象となり、語彙論や文法論などの学問体系を成している。

「単語」と「語彙」は異なる概念であるが、その区別がつかずに同じものとして扱っている語学専攻の学習者が少なくないそうであるため、この章では「単語」と「語彙」および「語彙論」の基本概念を簡約して述べることにする。

一、単語

物やその動き、性質などを表わす一つ一つの言葉を単語とい

う。次にあげるものはみな単語である。

うま いぬ きりん さくら ばら (動植物)

いす つくえ ボールペン ノート (家具、文房具)

歩く 働く 食べる 笑う 立つ (動作)

白い 丸い 大きい 重い 明るい (性質)

単語は一定の「形」と「意味」とをもっている。

単語の形は語形ともいう。それは一定の音声によって表されるものである。ここでいう「音声」は「音韻」のことを意味するものである。音韻はつまり最小単位の音素をもって、意味を区別させるために用いられるものである。単語は普通複数の音素によってできている音声連続である。この音声連続の結びつきは必然的な規則にしたがってできたものではなく、まったく恣意的なものである。たとえば、[sakura]という音声連続は日本語の音声形式で、「さくら」はその表記形式である。それは別の国の言葉だと、同じ「桜」に対する呼び方が違うことになる。

日本語の場合、普通一仮名は一音節によって代表される。たとえば、「机」は「ツ」、「ク」、「エ」という三つの音節からなる。すなわち、「机」という単語を発音するのに、男性と女性、大人と子供とでは、当然違った発声になるが、これは、音声上の違いであって、音韻としては同じものであるから、この単語の形としては変わりが無い。しかし、これを「ツグエ」と発音すれば、それは音韻的にも違うので、単語の形は変わったことになる。

一定の音声ということは、一つの単語にただ一つの形しかないということを意味するのではない。まず、文法的な語形変化がある。「よむ」、「よめ」、「よもう」、「寒い」、「寒く」などのように変化する単語は、その変化形の数と同じ数の形を

もっているわけである。また、その働きと関係なく、「むつかしい～むずかしい」、「いい～よい」、「いく～ゆく」、「インク～インキ」などのように、二つ以上の語形をもっているものもある。

以上、みてきた単語の形（語形）という概念を簡潔でわかりやすい言い方をすれば、「単語は一定の『音』と『意味』をもっている」としてもよいのである。ちなみに、学習者には「語形」（＝単語の形）という、「音声」より、むしろ「文字」を考えてしまう傾向がある。それは、語形は音声形式と表記形式からなるという定説が広く存在しているためであろう。語形についての概念における両者のウェートを比べると、音声は一次的なもので、文字（表記形式）は二次的なものであるということがうかがえる。文字で書かれたものは「表記形」とよぶべきであろう。

単語の**意味**というのは、その単語の表している事柄の概念である。机にはすわる机も、腰掛ける机も、木製のものも、金属製のものも含まれ、大きさや形もさまざまだが、これらはすべて「読み書きのための台」という性質を共通にもっている。これが単語の意味である。単語の意味は、同じ種類の（あるいは近似した）事物に共通している一般的な特徴を指すものである（意味についての詳述は後章を参照のこと）。

単語は一定の意味を持っていることのほかに、文を構成する最小の言語単位であるという特徴がある。最小の言語単位は、それ以上分解できないという性質を持っているという。たとえば、「かわ」という単語を「か」と「わ」に分けると、意味がなくなってしまう。また、二語が組み合わせて新しい意味が生じた場合、全体として一まとまりの意味を持ち、いわゆる一体性を持つ複合語は、普通一単語とみる。

二、語彙

1. 語彙とは

語彙という言葉は英語の **vocabulary** に対して作られたものであろう。語彙の範囲についていえば、たとえば、シェークスピアの語彙は膨大なものだとか、あの女性は乏しい語彙をうまく使っていると言ったりするように、一個人を対象としたものであると考えることもできるし、ある言語全体を範囲とした日本語の語彙のようなとらえ方もできる。また、時代や地域を限定して、現代語の語彙とか、京都方言の語彙とかいうとらえ方も勿論可能である。書かれた文章を対象にして、『我輩は猫である』の語彙ということもできる。

また、幼児の語彙、義務教育修了段階の語彙、老人語の語彙のように、年齢層で区切った範囲でとらえることもできる。そして、男性語の語彙、女性語（婦人語）の語彙と性別でとらえることも、勿論可能である。日本語教育では学習段階を範囲の境目として、初級語彙、中級語彙、上級語彙と分け、また、読む、聞くことにおいて理解することができる理解語彙と、さらに進んで、話す、書くという場面において応用できる使用語彙とに分けることが通常行われている。

言語学においては、語彙といえば意味や使用範囲、あるいは形態上の特徴などからみて、一つの、まとまりのある言葉の集合体を指すのが普通である。すなわち、単語の全体を「語彙」という。逆にいうと、語彙は語の集まりである。日本語の語彙は全体として「日本語語彙」を成している。

2. 日本語語彙の特徴

日本語語彙の特徴については、そのまとめ方は学者の立場の

違いにより、いろいろあるが、概ね次のような内容であろう。以下の分類は、用例の多くは西尾寅弥の『日本語の語彙』を参考にした。（『日本語教育大事典』大修館書 1982 年）

1) 漢字との関係

日本語は、中国語を始め、さまざまな外国のことばを受け入れた言語である。特に中国語から数多くの言葉を取り入れた。そして、漢字は、語を表記する手段として使われるが、本来は表意文字であって、アルファベットなどに比べると、意味とのかかわりが深い。日本語の漢語の場合、発声の形（音声形式）は、漢字で書かれたもの（表記形式）の助けを借りて、はじめて意味内容を十分に示すことができるようになる。たとえば、「前文／全文」のような同音語においては、特にその特徴がはっきりみられる。なお、「指す」、「刺す」、「差す」などについて、同語か、別語かを識別しようとするときなどにも、漢字表記がかなり影響を与えているのである。日本語は学問的、専門的な分野で漢語が多いため、学習が進んだ段階において、漢語の語彙が重要になって、漢字の習得の必要性が、どうしても生じてくるのである。

2) 単語で細かく言い分けようとする傾向

金田一春彦の著した『日本語の特質』には、次のような意味の記述がある。

世界各国語をマスターする場合に、一体どのぐらいの単語を知ったらいいかという研究データが出ている。たとえば、フランス語は一千語を覚えると、会話のうちの八三・五％が理解できるそうである。ところが、日本語のほうは、一千語を覚えても会話の六〇％しか理解できない。フランス語は、五千語の単語を覚えると九六％理解できる。英語、スペイン語も、大体同

じょうなものであるが、日本語の場合は、二万二千語の単語を覚えなければいけない、という数字が出ている。

このことからわかるように、別の言語に比べて、日本語の単語の量が多いほうである。語数の多い原因の一つとして、現代日本語は、一つの単語を幅広く活用して間に合わせるのではなく、意味などの細かな違いを別々の単語によって表し分けようとする傾向が強いということがあげられる。この方向というのは次のようなものである。

ア、「落し物」を「遺失物」、「野菜」を「蔬菜」といったように、日常語と意味はほとんど違わない文章語が併存している例が多くある。また、学術用語と一般語との隔たりが日本語ではとりわけ大きい。

イ、二字漢語は短い語形で二つの概念を表すことができるために、たとえば、「開校 開学 開寮 開所 開局 ……」とこのように適用範囲の狭い、細分化された語を数多く作り出しやすい。

ウ、「乳母車」に対して、「ベビーカー」が区別されるように、なんらかの細かい違いに対して別の単語で言い分け、「買い物」に対して「ショッピング」のように、しゃれた感じを付加するための区別なども少なくない。

3) 意味的な分布から見た特徴

日本語語彙の数は全体として量的に多いほうであるが、分野別に調べてみると、必ずしも均整のとれたものではなからう。

ある分野において、その分野の物事の意味を表す語が豊かであるか、貧弱であるかということは、その言語の語彙の特徴の一つの重要なものである。

たとえば、自然現象では、雨や風などを表す気象に関する語

が豊かで、それらが季節感と結びついている。このほかに、地形や植物、また動物では、鳥、魚、虫を表す語が多い、というように自然を表す語彙がたいへん多いと言えるが、これは、日本の自然が変化に富んでいることと、もうひとつは日本人が自然に親しんで、強い関心を持ってきたこととを意味するものである。

ところが、人間の体の部分を表す語について、たとえば、日本語の場合は、「手」を *hand* と *arm*、「足」を *foot* と *leg* と英語で言い分けるようには、詳しく細分しない傾向がある。内臓や病気を表す用語は、本来の日本語（和語）に少なく、漢語として表記されることが多い。

日本語には感情を表す語が多くみられる。たとえば、恥ずかしさの関係では、「てれる」、「きまりがわるい」、「ばつがわるい」、「はにかむ」など微妙なものが多くなる。

日本人がものの微妙な味わいを好むところから、「きめ」、「こく」と「風味」のような語や、「わび」、「さび」と「いき」のような、独特な意識を表す語などがある。そうした語は外国語に翻訳することが非常に難しいもので、その表現の面において、日本語的な語の典型的な例とされているものである。

三、語彙論

語彙に関する学問は、言語教育の場で教科書に出てくる一つ一つの単語を教えることではなく、それらの単語が共通して持っている一般的な性質（つまり、語彙的性質）を学習者にわからせて、教えておくことであり、また、それを研究することでもある。

たとえば、単語がどのような性質を持っているかを研究する目的で項目を立ててまとめてみると、次のようであるが、その分類は、『語彙教育 その内容と方法』（教科研東京国語部会・言語教育研究サークル著）にしたがってなされている。

(1) 一定の意味をもっていること。（「うさぎ」は耳が長くてぴょんぴょんと跳ねる動物を、「はしる」は足を使って速く移動することを表している。）

(2) 一定の形をもっていること。（「うま」は「うむ」とも「うめ」とも言わず、「あるく」は「はるく」や「やるく」とは言わない。）

(3) 使われる場合に違いがあること。（「昨日」、「帰還する」は「きのう」、「かえる」に比べて改まった、正式な場面に使われる表現である。）

(4) 出身がさまざまであること。（「ボール」は英語から、「ガラス」はオランダ語から、「読書」は中国から、日本に入った。）

(5) 一定の構造をもっていること。（「秋風」は「秋」と「風」という部分に分けることができるが、「秋」は「あ」と「き」に分けられない。）

このように単語の性質を単語の「語彙的性質」といい、これを研究する学問を**語彙論**という。

ところが、単語には、**語彙的性質**だけでなく、**文法的性質**もある。つまり、二つの側面をもっている。「うさぎ」という単語は「うさぎが」と「うさぎに」という文法的な形で、それぞれ<主体>、<対象>という文法的な意味を表している。それから、「はしる」という単語は「はしれ」、「はしった」、「はしらない」といった文法的な形で、それぞれ<命令>、<過去>、<否定>という文法的な意味を表している。しかし、

このように、文法的な形や文法的な意味は変わっても、これらの単語が上述の（１）～（５）にあげたような性質をもっていることには変わりがないのである。

語彙論は音韻論や文法論と並ぶ言語研究の重要な一分野で、語彙について、その構造、変化、体系、意味などを体系的に記述し、説明する学問である。

語彙についての研究は、音韻論や文法論のそれに比べて遅れている。特に日本語の語彙研究は一九五〇年頃から語彙と意味についての調査研究が始められ、さまざまな成果も出ており、しだいに本格化するようになったといわれている。

日本語語彙の研究は普通、次のような分野において行われている。

- 語彙の体系性についての研究
- 語彙の数量の推定や統計についての研究
- 基本語彙の性格とその選定方法についての研究
- 語種の構成および関係についての研究
- 語彙の位相についての研究
- 語彙の歴史的変遷や沿革についての研究
- 語彙間における異同についての比較対照の研究

このほかにも、語彙論の周辺にある分野、たとえば、意味、慣用句、辞書についての研究などもある。要するに、日本語語彙研究の内容は比較的バラエティーに富んだもので、広い分野にまたがっているものである。

練習問題：

- １．単語と語彙との相違を説明してください。
- ２．日本語語彙の特徴は何ですか。
- ３．単語の持っている二つの側面はそれぞれ何ですか。